

平成 24 年度第 2 回岩手県被災地健康支援事業運営協議会 会議録

日 時：平成 24 年 12 月 21 日（金） 14：30～16：00

場 所：盛岡市勤労福祉会館 5 階大ホール

出席者：32 名（委員 17 名、代理 4 名、アドバイザー 1 名、事務局 7 名、その他 2 名）

傍聴人：5 名（報道機関 4 名、その他 1 名）

1 開会

2 あいさつ

保健福祉部長あいさつ

- ・県では、昨年 8 月に策定した「東日本大震災津波復興計画」について、事業の進捗状況や被災地域の復興状況を踏まえ、今年度、復興実施計画の見直しを行った。「安全の確保」、「暮らしの再建」、「なりわいの再生」の三つの原則に基づき、被災者の健康の維持・増進を図るため、きめ細かな支援を継続しているところである。
- ・昨年度、本県を含む被災県に交付された健康支援事業臨時特例交付金を活用し、被災地における健康支援に係る保健師等の人材確保に対する補助等を実施するなど、被災市町村の健康支援活動の支援を行うことにより、被災者の健康の維持増進を図っているところである。
- ・県としても、本協議会における協議結果を、今後の被災地の健康支援に反映させていきたいと考えている。

3 議事

(1) 「平成 23 年度特定健診結果に基づく被災者の健康状態の分析結果について」

岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学 教授 坂田 清美 氏

- ・ 8 市町村の被災の有無別収縮期血圧の平均値をみると、健診を受けた時点においては、被災の影響はみられない。年齢を調整してみてもほとんど変わらない状況である。
- ・ 脳卒中登録データを細かくまとめている調査によると、発災後 1 カ月までの時点では、明らかに血圧が上昇し、脳卒中の発症も増えているという結果がでている。健診データから入手することは難しいが、震災による強いストレス、食事、運動面の問題により血圧が上昇したが、治療の効果も起因し、1 ヶ月以降は血圧が落ち着いてきたと考えられる。
- ・ 男性の腹囲の平均値は、被害ありの群で高い傾向があり、男性の体重の増加は、被災が影響している可能性が十分にあると考えられる。
- ・ 大槌町のこころの健康（K6）をみると、要注意者（13 点以上）の割合が昨年度より 10%程度改善がみられるものの、全国調査結果（20.0%）より 10%程度高い割合となっている。健診のデータでは被災によって大きな違いはないということによいと思うが、こころの健康については、回復までかなり時間を要する。
- ・ 岩手県の脳卒中による年齢調整死亡率は全国で最も高くなっており、死亡率の低い県に比べ約 2 倍近く高くなっている。被災の有無に関わらず、岩手県全体として対策に力を入れて取り組む必要がある。
- ・ 健診結果では被災による明らかな違いは出てきていないが、問題がないという訳ではない。食塩・カリウム・野菜の摂取量、運動、飲酒等多くの面で改善すべき点はたくさんある。

(2) 被災地の健康支援対策について

事務局から資料2、資料3より説明。

(各市町村委員からの発言)

- ・ 応急仮設住宅・みなし仮設住宅入居者、在宅避難者の家庭訪問等による健康調査を実施しているが、面接率は5割程度である。面接できなかつた方については、調査票の返送依頼や電話、関係機関と連携による情報把握に努めている。健康調査の結果を分析し、今後の支援施策の参考としていく。
- ・ 保健師等の専門職を募集をしても応募者がいない、住居の確保が難しい等の状況によりマンパワー不足が課題である。他自治体からの保健師等派遣協力についても、来年度以降は不確定である。
- ・ 検診（特にがん検診）の受診率が低いため、対応を検討していく必要がある。
- ・ 被災の有無に関わらず、全体的に心の健康レベルの低下が感じられ、メンタル面の支援は長期間必要である。
- ・ 単身男性者のアルコール問題、野菜不足が課題であり、今後も継続支援が必要である。
- ・ 一人暮らしの男性の食事支援のため、男性を中心とした事業等実施しているが、参加者の拡大が難しい。家庭訪問によるPRや個別指導などの働きかけをしている。
- ・ 閉じこもり高齢者の中で、何のサポートも受けておらず、要介護認定につながる人がみられる。
- ・ 地域の中でも、住宅再建等復興状況に格差が生じてきており、生活再建の状況が健康にも影響を及ぼしている。
- ・ 訪問による歯科個別指導等を実施し、歯科受診の促進等図っている。
- ・ 人材の確保に係る支援や被災者健康づくりサポート事業を活用しながら事業を実施しているところであり、平成25年度以降もこのようなしくみをぜひ継続してほしい。長期的な財政支援をお願いしたい。

【東北厚生局】

- ・ 被災地においては、まだまだ厳しい状況が続いているということを改めて実感した。
- ・ 財政支援に対する要望については、本省に対して強く要望していきたい。
- ・ 平成23年度の特健健診結果からは、被災の状況による大きな差はみられなかったとのことであるが、それだけダメージの大きさを強く感じた。

【議長】

- ・ 応急仮設住宅入居者の食事のバランス、野菜摂取等が課題である。
- ・ 各関係機関・団体の委員の皆様には、今回の協議内容等をそれぞれの機関・団体に持ち帰り、引き続き支援をお願いしたい。

【小田島保健福祉部長】

- ・ 健診のデータでは、被災による明らかな違いは見られないということであったが、全体としては、食事上の問題、脳卒中における経年変化による岩手県の位置づけ（全国的に高い）等明らかになっている。今日の中間報告を受けて、今後どのような施策を展開していくか検討していきたい。
- ・ マンパワー不足の問題、男性のアルコールの問題、復旧における格差の問題等が複合的にあるということであり、継続して事業に取り組んでいく必要があるということを改めて認識した。
- ・ 被災者の方々が健康でいられるよう県としても取組を進めていきたいと考えており、市町村や関係機関と一緒に取り組んでいきたいと考えているので、今後ともよろしくをお願いしたい。

(3) その他

- ① バランス弁当箱について 資料4により事務局から説明。
- ② 今後のスケジュールについて 資料5により説明